



学会に行ってきました！

山形県立こころの医療センター
精神看護専門看護師 佐藤 充

先日、名古屋で開催された精神保健看護学会に行ってきました。この学会には毎年参加しています。学会では全国の志を同じくする仲間と現状の課題や未来への展望を語り合い、とても有意義な時間になります。

名古屋では、修士の後輩の研究発表の応援をしたり、ワークショップでしっかりと勉強するとともに、日頃のストレスを発散する為に雰囲気たっぷりのお店で買い物をしたり、おいしいものを食べたりもしました。

今回、参加してきたワークショップは、「クライシスプラン」と「精神力動論」です。どちらも患者さんを理解するため、患者さんの地域生活が安定する為に必要な考え方ですが、これらは患者さんから患者さん自身のことを教えてもらわないと成立しません。



NBM (Narrative-based Medicine：物語に基づいた医療) という考え方があります。Narrative とは物語の意であり、個々の患者が語る物語から病の背景を理解し、抱えている問題に対して全人格的なアプローチを試みようという臨床手法です。NBMの特長として、①患者さんの語る病の体験という「物語」に耳を傾け、これを尊重すること。②患者さんにとっては、科学的な説明だけが唯一の真実ではないことを理解すること。③患者さんの語る物語を共有し、そこから新しい物語が創造されることを重視することが挙げられます。

私たちは医療の専門家として、一見すると専門的な知識を提供する存在のように思えますが、治療というのはその人の生活の中で行われます。生活の中で行われるのであればその人の生活を知らなければなりませんし、まずその人を知らなければなりません。だからこそ私たちは医療の専門家ではありますが患者さんの専門家ではなく、教えてもらう姿勢が必要なのです。どうぞ皆様の体験を私たちに教えてください。

ちなみにこの学会は当事者の方やそのご家族も参加可能です。興味のある方は参加してみてください。

引用・参考 日本救急医学会 (2009)

・ <http://www.jaam.jp/html/dictionary/dictionary/word/O109.htm> 2019/06/21.